

名前 () 日づけ (/) できた数 (/26)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。漢文は「読み」と「句法」で点が決まります。

Aで読み、Bで句法、Dで訳、Eで内容と、テストに出る順に並べてあります。

あらすじ＝項羽が劉邦を宴に招く。范増は殺せと三度合図するが、項羽は動かない。范増は項莊に剣の舞をさせて討たせようとするが、項伯がかばって果たせない。

一次の書き下し文を読んで、後の問いに答えよ。

沛公旦日（たんじつ）百余騎を従へ、来たりて項王に①見（まみ）えんとし、鴻門に至り、謝して曰はく、「臣（しん）將軍と②力を戮（あは）せて秦を攻む。將軍は河北（かほく）に戦ひ、臣は河南（かなん）に戦ふ。然れども③自ら意（おも）はざりき、能（よ）く先に関（かん）に入りて秦を破り、復（ま）た將軍に此（ここ）に見（まみ）ゆるを得んとは。今者（いま）小人（しょうじん）の言有りて、④將軍をして臣と卻（げき）有らしむ。」と。

項王曰はく、「此れ沛公の左司馬（さしば）曹無傷（そうむしょう）之を言へり。⑤然らずんば、⑥籍（せき）何を以（もつ）てか此（ここ）に至らん。」と。

項王即日（そくじつ）因（よ）りて沛公を留めて与（とも）に飲む。項王・項伯は⑦東嚮（とうきよう）して坐し、⑧亜父（あほ）は南嚮（なんきよう）して坐す。一亜父とは范増なり。一沛公は⑨北嚮（ほつきよう）して坐し、張良は西嚮（せいきよう）して侍（じ）す。

范増⑩数（しばしば）項王に⑪目し、佩（お）ぶる所の玉玦（ぎよつけつ）を挙げて以て之に示す⑫者（こと）三たびす。項王⑬默然（もくぜん）として応ぜず。

范増起ち、出でて項莊を召し、謂（い）ひて曰はく、「君王（くんおう）⑭人と為（な）り忍びず。若（なんぢ）入りて前（すす）みて寿（じゆ）を為し、寿畢（をは）らば、請ふ劍を以て舞ひ、因りて沛公を坐に撃ちて、之を殺せ。不（しか）らずんば、⑮若（なんぢ）が属（ぞく）皆且（まさ）に虜（とりこ）とする所と為らんとす。」と。

莊則ち入りて寿を為す。寿畢りて曰はく、「君王沛公と飲む、軍中（ぐんちゆう）以て樂しみを為す無し。請ふ劍を以て舞はん。」と。項王曰はく、「諾（だく）。」と。項莊劍を抜き起ちて舞ふ。項伯も亦（ま）た劍を抜き起ちて舞ひ、常に身を以て沛公を翼蔽（よくへい）す。莊撃つを得ず。

語注 沛公＝劉邦。項王＝項羽。籍＝項羽の名（項籍）。亜父＝父に次ぐほど敬う人。卻＝すきま。仲たがい。玉玦＝欠けた輪の玉。翼蔽＝翼のようにおおいかばう。

A 語句と読み(1～8) ※読みまちがいが失点の第一位

- (1) ①「見(まみ)えん」の「見」の読み
- (2) ②「力を戮(あは)せて」(戮す)の意味
- (3) ③「自ら意(おも)はざりき」の意味
- (4) ⑤「然らずんば」の意味
- (5) ⑧「亜父(あほ)」の「亜」の意味
- (6) ⑩「数(しばしば)」の読みと意味
- (7) ⑪「目し」(目す)の意味
- (8) ⑫「者(こと)三たびす」の「者」の意味

B 句法(9～13) ※使役・反語・再読文字・受身

- (9) ④「將軍をして臣と卻(げき)有らしむ」の句法名
- (10) ④「將軍をして臣と卻(げき)有らしむ」の口語訳
- (11) ⑥「籍(せき)何を以(もつ)てか此(ここ)に至らん」の句法名
- (12) ⑬「若(なんぢ)が属(ぞく)皆且(まさ)に虜(とりこ)とする所と為らんとす」の「且」の読みと働き
- (13) ⑮「若(なんぢ)が属(ぞく)皆且(まさ)に虜(とりこ)とする所と為らんとす」の「為A所B」の句法名

C 主語はだれか (14～17)

(14) ①「見(まみ) えん」(お目にかろうとしたのは誰か)

(15) ⑥「籍(せき) 何を以(もつ) てか此(ここ) に至らん」(「籍」とは誰のことか)

(16) ⑬「默然(もくぜん) として応ぜず」(黙って応じなかったのは誰か)

(17) 「常に身を以て沛公を翼蔽す」(かばったのは誰か)

D 口語訳 (18～21)

(18) ④「將軍をして臣と卻(げき) 有らしむ」

(19) ⑥「籍(せき) 何を以(もつ) てか此(ここ) に至らん」

(20) ⑬「默然(もくぜん) として応ぜず」

(21) ⑮「若(なんぢ) が属(ぞく) 皆且(まさ) に虜(とりこ) とする所と為らんとす」

E 内容・記述 (22～26)

(22) ⑦「東嚮(とうきよう)して坐し」・⑨「北嚮(ほつきよう)して坐し」について、席の向きから項王と沛公の関係をどう読み取れるか。四十字以内で書け。

(23) ⑫「者(こと)三たびす」で、范増は何をしようとしたのか。三十字以内で書け。

(24) ⑬「默然(もくぜん)として応ぜず」のように項王が動かなかったのはなぜか。

(25) 范増が自分で沛公を斬らず、項莊に命じたのはなぜか。

(26) この場面全体から、項王と沛公の運命を分けたのは何だったと読み取れるか。四十字以内で書け。

【テスト直前チェック】漢文はこの三つ ①読み＝見(まみゆ)・数(しばしば)・者(こと)・不者(しからずんば)。ここを落とす人がいちばん多い。 ②句法4つ＝使役「AをしてBせしむ」／反語「何を以てか〜ん」／再読文字「且(まさに〜んとす)」／受身「為A所B」。 ③席次＝東が最上席。項王が東、沛公が北＝この時点で上下がついている。